

アナキズムと盗奪企業爆破事件

アナキズムは、今、社会の地下に非常な勢いで発育しつつあります。それは現代の状況が地下に根をのばすのが最良だからです。しかし地下とはいえず、アナキズムは生命の運動ですから、時にはその呼吸が地表にも現われます。そのひとつが今度のアナキスト齋藤和君ら、東アジア反日武装戦線の盗奪企業爆破事件です。

盗奪企業は社会を食い荒らし、国家機関やマスコミを思いのままに操作して私たちを家畜のように扱い、さらに第三・第四世界にまで盗奪に出かけ、その買弁政権と親密な関係を保つことによつて私たちをも加害者にしてしまったことは明らかなことです。特に朝鮮半島に対しては、明治以来の罪悪を悔い改めるどころか更に加害しつつある現状です。

齋藤君らは、この人類を死に追い込むガンである盗奪企業の摘出手術を執行したのです。それは人体内の病菌を白血球が食い殺すのと同じで、人間の自救活動といえましょう。要するに彼らは社会の外科医といえるのではないのでしょうか。アナキズムの場である家庭も生命も投げ捨て、私たちに自立を呼びかけたのですから、絶対自由・万人平等・人類愛の殉道者といえないでしょうか。

「一粒の麦・地に落ちて死なずば：：」というように、幸徳秋水大杉栄らの死によつて日本のアナキズムは生長しました。そして今また、齋藤君らは、本棚におかれていた思想を、万人が感触できる生きたものに変えてくれたのです。

クロボトキン「叛逆者の言葉」の中で、「一個の行動はよく百千のパンフにまさる」といっております。講壇化、サロン化、セクと強大さをもつて人類の心の奥底に敵然と存在し、噴出することを私たちは齋藤君らによつて教えられ示されました。社会のガンである盗奪企業に攻撃を加え根絶する「革命」は、この社会性の大活動のほかありません。

国家と盗奪企業は、太平洋戦争によつて何千万人の死傷者を出しました。私たちはその元凶天皇の戦争責任について、刑罰をもつてせず、ただ天皇制の廃止を求めているだけです。

東アジア反日武装戦線の行動は、実に、このような盗奪企業とその番犬である暴力国家が行ってきた大犯罪が誘発したものです。しかも彼らは東アジア反日武装戦線の同志たちを捕え、処刑しようとしています。この爆破事件について彼ら権力者が、東アジア反日武装戦線の同志を裁き、処罰する真の権利はない。私は権力者のまず自己への反省を要求します。そしてそれは、人間解放の社会革命においては、ただ一人の死傷者も出ないのを理想とするからなのです。私たちは国家権力の法律テロを阻止し、監獄の廃止を要求します。

アナキストは、商業主義のマスコミやジャーナリズムの利用を卑しみます。名声を求めたり、権勢や利益を欲したりするのは、アナキストになぞならない。アナキズムの戦線には多くの純情の人、有能の人、誠実熱心の人があるにもかかわらず、世間的に無名です。有名になろうとしない。それはアナキズムは社会の中に溶解し、人類の間に同化するのが本質だからです。しかし、運動の現況はこれらの同志が社会の表に現われていたかねばならなくなり、また今、新しい安藤昌益、権藤成卿、新しい幸徳、大杉、野枝、文子らが生まれ多種多様な新運動が展開しようとしているからです。殉道者の血と活動家の涙が雨とそそがれ、反権力の正義の太陽の光が照ってこそ、革命の花は咲く：：。それは花咲くことは死を意

ト化したアナキストは、いまこそアナキズムの真の姿に回帰して、個々の思想を実践で示すべきです。

盗奪企業の番犬である警察やタイコもちのマスコミは、三菱重工の爆破で死傷者が出たことをもつて、東アジア反日武装戦線を「社会の敵」と非難します。しかし、爆破を電話で予告していること。調査の誤算から予想以上の爆破となったため、以後、小型のものにし死者を出さなかったこと。そして「自死」の意志であったことなどを考えれば、ベトナム戦争などで暴利を得、また環境破壊で自然を、公害で人間を殺し続けている盗奪企業の罪悪が、比較できない重大であることは万人の目に明らかなことです。

もちろん死傷者が出たことは残念で、その人々を心からいたみます。それは齋藤君らにまさる人類更生の革命戦の犠牲者だと考えます。そして病巣摘出の大手術のためには、その周辺にある若干の細胞が犠牲になってしまうのは、万やむをえないことだったと思われまふ。

しかし：：、齋藤君らが人類永遠の健康を回復しようとして、病巣にむかって突撃した志には敬意を表しますが：：、私はその手段を現段階でとることはできないのです。革命への情熱に燃えながらも家庭でも職場でも隣人に対しても、温良誠実であつた東アジア反日武装戦線の人々が、別のアナキスト革命の方向で献身されたならばと思うと残念でたまりません。アナキスト運動は多種多様です。その理論を万人に説得力をもつように完成する研究者になってくれたら：：。大衆の日常生活の福祉のために奔走する組織活動家になってくれたら：：。など考えると胸がかきむしられます。

人類の天性であり自然である「社会を組織して幸福な生活を営む本能」社会性、創造的組織力は、今なお太古の原生林のような清純味することであるとも、その果実は大衆の楽園、共産村に結ばれます。社会正義の陽光もなく、殉道者・活動家の涙もなくして、知識人らの支配欲の満足のために、結社組織と指導者によつて革命を自称する強権主義者を誤信してはなりません。

私たちは叫ぶ。それは大衆を指導するためではなく、叫ばないではいられないからです。私たちは戦う。それは大衆を支配するためではなく、私たちの精神の奥底の社会性「創造的組織力が戦わずにいられなくするからです。

東アジア反日武装戦線の武闘は人類歴史の偉大な記録であり、アナキズムのおのずから噴出であります。齋藤君らは、アナキスト革命の可能性と正当性を、身を投げ捨てて証明してくれたのです。彼らの思想と行動は、永遠に全民衆の総決起・総破壊・総建設の戦闘を鼓舞してやまないでしょう。（決定稿文責 大島英三郎）

追記。東アジア反日武装戦線は天皇に対し死刑を執行しようとしたが、無限大の戦争犠牲者の平和の願いをふみにじり、死の商人と癒着し再軍備に狂奔する国家権力に抗し、戦争防止のために孤立無援の戦闘をつづけた彼らの心情に涙なきを得ません。

今、東京拘置所に在監中の東アジア反日武装戦線の人びとに、公判傍聴さし入れ等の救援を要請いたします。カンパは黒色戦線社で取り扱いますが、救援連絡センター（東京都港区新橋二一八一―六石田ビル四階一四号電話〇三―五九一―一三〇一振替東京一〇五四四〇）でも取り扱っております。

大きな船が静かに波の上に浮んでゐます。船の中では大勢の人々が、お互に、喧嘩をしたり、奪ひ合つたり、殺ろし合つたり、だまし合つたり、虐げたり、搾られたり、搾つたり、搾られたり地獄そのまゝ、修羅場を出現してゐます。

船は大きく、波は静である。人々は永久に、永遠に、安全に、波の上に浮んでゐると思ふてゐるだが、それは間違つてゐた。波の流れは急になつてゐる。それは千丈の瀑布になつてゐる。今にして引きかえさねば、船は千丈の瀑布の底に落ちて、木葉みちん人々は魚腹を肥やすことになる。

危険！ あぶない！

今は喧嘩したり、だまし合つたり、乃至は、殺ろし合ひ、奪ひ合ひなんぞしてゐる時でない。お互に力を合はせ、心一つにして船を安全地帯に漕ぎ戻さなくてはならないのだ。

然るに、人々はさうした危険が船にせまつてゐることを一向に知らないでゐる。實に危険だ！ 實にあぶない！

ところが、そこに、この危険に気がついた人々がある。彼等は警鐘を亂打し、聲をからして危険の船に迫つてゐることを叫んでゐる。彼等は身を粉に碎ひてまでも船を救ひ出さんと力めてゐる。

だが、かうした人々にも大なる過誤があつた。さうして今も尙ほこの過誤を犯し、また犯さんとしつゝある。彼等は船が千丈の瀑布の底に沈んだならば彼等も共に底の藻屑となるものと思ふてゐないことだ。彼等は眼ざめてゐる。彼等は岸にゐる。安全地帯にゐる。でなければまさかの時は安全地帯に逃がれ得ると思ひ誤つてゐる。

乃公は安全だ！ けれども蒼生を如何せん、それ故に、乃公は警鐘を亂打し、聲をからし、粉骨碎身、身を殺ろして救世のために働いてゐると、かう言ふのだ。さうして彼等は自らエラがり、自らを高くしてゐる。

所が、何んぞ知らん。彼等も矢張り、この危険な船の中の人なのだ。彼等も決して、岸や、安全地帯にゐるのでない。また安全地帯にのがれ得るものでない。船が沈まば彼等も沈む。

彼等は、かの金権や政權を握つてゐる徒輩が、これさへ握つて居れば天壤無窮、何時の世までも萬歳をことぶき得ると思ふてゐると同じやうに、自分たちは安全だと思ひ誤つてゐる。

船が沈めば、支配者も被支配者も、金持も貧乏人も、掠奪者も被掠奪者も、目ざめた者も、目ざめぬものも、何にも、かも亡んで了ふのだ。

私たちは船を沈めたくない。聲をからし、警鐘を亂打して、斯民を眠からさまし、力を合せ、心一つにして船を安全地帯に漕ぎ戻さなくてはならない。

私たちは亡びたくない。

かくて私は今まで野に叫んで来た。私の聲は元より小さい。私は學者や文人でない。私の筆は元より力がない。だが、私は亡びたくない。この心、この願望、私に叫ばしめ、私に廻らぬ筆を走らしめた。(ほんとうのことは心から心、口から耳、直接でなくて出来るものでない)
今若き同志が私の書いたものを集めて世に出すと云ふ。私は黙つて、同志の爲すにまかした。

戦が友遊いて二十有一年

四月一日

岩佐作太郎

一九八二年一〇月一日 第二版発行
定価 一、五〇〇円

編集・
発行人 大島英三郎
発行所 黒色戦線社

160 東京都新宿区新宿2丁目13番2号 共学文庫内
電話 03(352)5808
郵便振替口座 宇都宮6・11015 大島英三郎